

○基礎情報【経営形態：大豆加工品や野菜の生産・販売、地域からの委託作業】

【職員数：23名、事業所利用者数：37名】

＜問い合わせ先＞ 生活学舎のんき 大木 博 氏
☎ 080-5595-0261

1 農福連携に取り組んだ経緯

代表理事の大木博氏は、看護師として神奈川県と鶴居村の病院で勤務。退職後の平成15年、障がい者のための下宿を開設した後、自然豊かな鶴居村で、障がい者が自然や地域と関わる生活ができるよう、平成20年にNPO法人を立ち上げるとともに、鶴居村で生産される大豆に着目し、豆腐等の製造と販売を開始。

2 取 組 内 容

(1) 就労形態：就労継続支援B型事業所。釧路市や村内のグループホームから送迎・徒歩で通所。利用者は精神障がいと知的障がい者が約半々。若年層と高齢者層で二極化しており、近隣の特別支援学校の卒業生も就労。

(2) 就労期間：通年

(3) 就労時間：9:00～16:00 まで（昼休憩 12:00～13:00、その他小休憩あり）

(4) 利用者の作業内容

①豆腐：「つるい丹頂豆腐」、豆乳プリン：「鶴里つるりん」、おからパンやクッキー等の食品製造・・・豆腐は、原料大豆の選別、製品のカット・パック詰め、検品等。プリンは、豆乳への加糖、容器への流し込み等。おからパンやクッキーは、材料の計量や攪拌（かくはん）、成形等

②豆腐、豆乳プリン、おからパンやクッキー等の販売・・・村内の直売所「のんき屋」での接客や事業所職員が運転する移動販売車に同乗して、釧路市内での販売作業等

③その他・・・山わさび、クレソン、葉わさび、ルバーブ等の農産物の生産・販売、地域高齢者宅の除雪作業、道路の花壇作りと維持管理、鶴のモバイルやエコバッグ作り等



3 取 組 の 特 徴

(1) 豆腐は鶴居村の農家が生産する青大豆（音更大袖振）・黒大豆（濃姫）を使用。裏山麓のきれいな水を利用して、本わさびやクレソンの栽培を手がけるなど、鶴居村の豊かな自然のめぐみを利用。

(2) 人口が約2,500人の鶴居村では、地域との関わりが大切と考え、高齢者宅の除雪作業や道路の花壇維持管理作業等を自治会から受託。また、豆腐は釧路市内の1店舗を除き、スーパーでは販売しない。

(3) 豆乳に着目して豆乳プリンを開発するとともに、若い主婦層に選んでもらうため、豆腐の豆知識や手書き漫画を掲載したオリジナルかわら版を無料配布する等、購買者の嗜好に合わせた販売を工夫。

(4) これらの取組の結果、豆腐は人気商品となり、地域住民や通りがかりのお客様に、1日800丁、年間15万丁以上を販売。月額工賃は約24,800円で、B型事業所として道内9位の水準（平成26年度）。

4 障がい者就労への考え方

(1) 地域住民との対面販売は、障がい者を生き生きとさせるとともに、売り先の生活などの物語が感じられ、行政が把握しにくい高齢者の体調等を把握することもできる。

(2) 作物は管理が悪いと枯れるなど、農業と人間の間には言葉を超えたわかりやすい「生きた関係」がある。

5 今後の予定や将来展望

(1) 職員が行っているにがりの調整を利用者が行い、利用者を豆腐製造の主役にしたい。

(2) 釧路市内で勤労者の帰宅時間帯を狙った「夜の豆腐屋さん」を展開し、売り上げを伸ばしたい。

(3) 地域との関わりを実感できるよう、ラッパを鳴らしながらリヤカーで鶴居村内の移動販売を行いたい。

(4) 障がい者がヘルパー制度や機械化が進む酪農分野に参入することや、野菜栽培のみで収益を上げることは難しい。しかし、鶴居村とJAが一体となって、離農地や豊富な森林を利用した農林業を拡大し、農林産物を村外に広めることは可能。今後、地域の高齢者が長年培った豊かな経験を生かし、高齢者の活躍の場として、障がい者と共に野菜栽培を行う予定であり、のんき工房の取組が地域振興のきっかけとなればよい。